

市立伊勢総合病院

資料3



災害に強い病院

⇒新病院整備の基本方針の1つに、「災害時に拠点となる病院として、市民の命を守ります～新病院を自然災害への対策が可能な敷地に整備するとともに、大規模災害時において地域の拠点となる機能を確保します～」

新病院概要

所在地	伊勢市楠部町 3038 番地		
敷地面積	約36,800 m ²	階数	地上5階、塔屋2階
延べ床面積	病院棟：25,288m ² ※エネルギー棟含む	構造	RC造・一部S造

立地

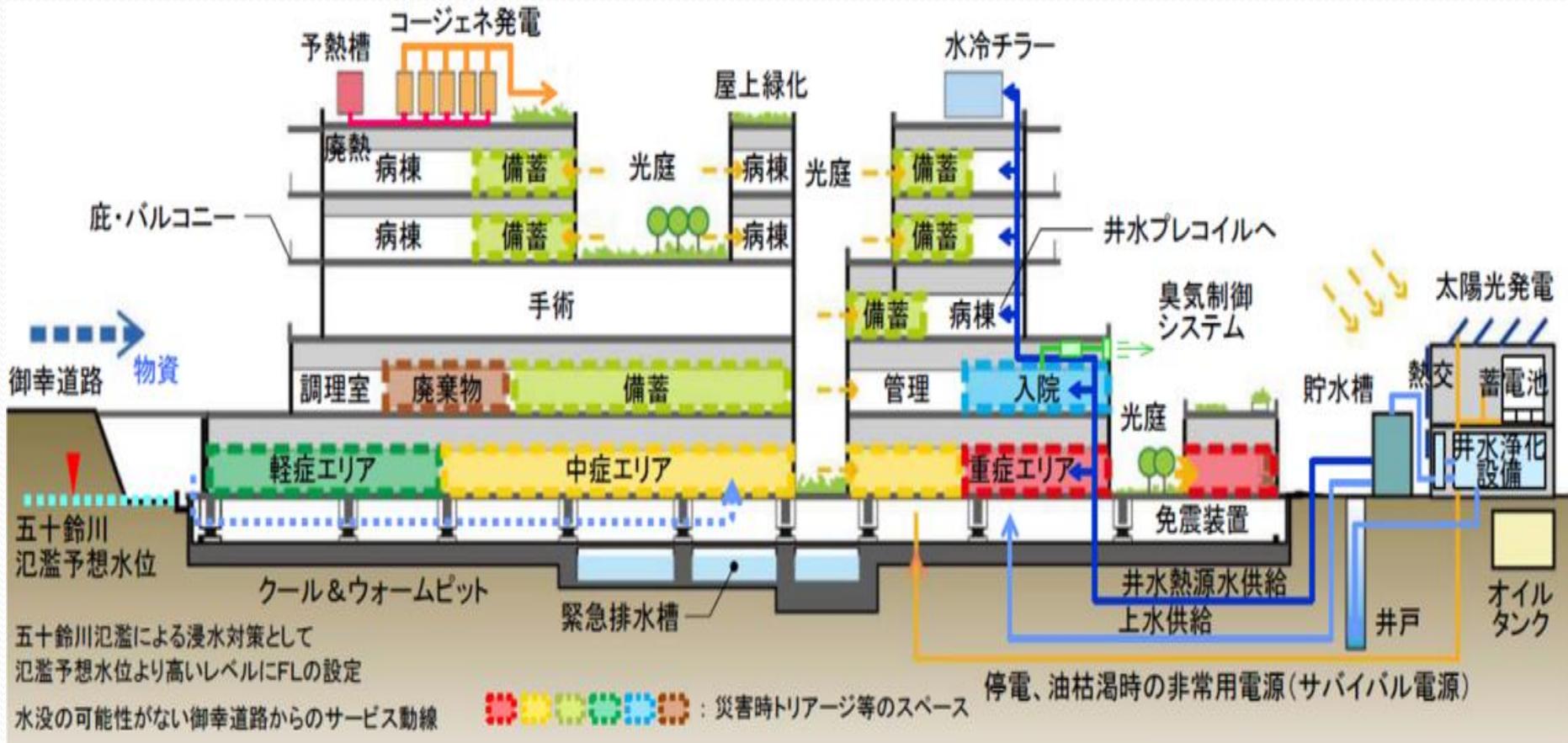
- 津波の浸水想定区域外
- 五十鈴川の氾濫予想水位以上の地点に建設

建物

- 免震構造
- 屋上には防災ヘリが離着陸可能なヘリポートを整備
(耐荷重11トン)
- 災害時のエネルギー対策



新病院の機能



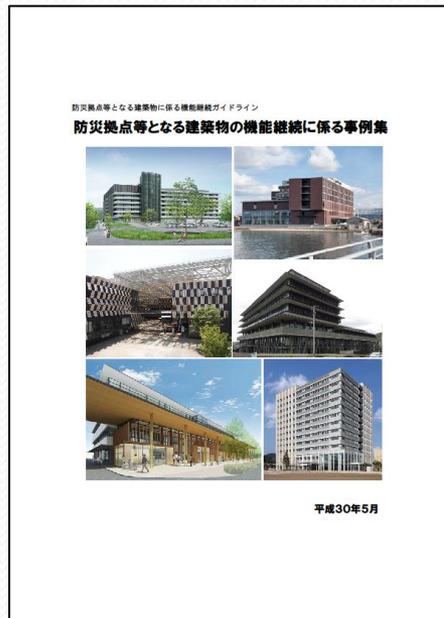
MCP(医療継続計画)性能

MCP性能		停電	断水	ガス遮断	油枯渇
電気	非常用発電機	防災・保安電源 (常時の82%へ供給)			太陽光+蓄電池 サバイバル電源
	光庭	災害時の自然光による明るさ確保			
給水	井水浄化設備	井水にて上水・雑用水を100%供給			受水槽備蓄 3日分
排水	緊急排水槽	排水機能の確保			緊急排水槽 3日分
厨房	厨房設備	電化厨房器具 (保安電源)	プロパンエアーの利用		
空調	熱源の多重化	チラー稼働 (保安電源)	油焚による 吸収式稼働	病室等の 自然換気	
通信	通信設備	通信・連絡網の確保			防災行政無線 の使用

新病院建設にあたって

設計・施工業者任せではなく病院職員の意見も十分取り入れる必要がある。

⇒可能な限り各部門の担当者が打ち合わせ等に参加し意見を反映させることが非常に重要。



国土交通省が策定した「防災拠点となる建築物に係る機能継続ガイドライン」に参考事例として掲載された

災害に強い病院となるための取組

- BCP(災害時業務継続計画)
- 防災訓練の実施
- DMAT(災害派遣医療チーム)
- 災害拠点病院



整備された新病院の機能を十分理解し、マニュアルの整備、研修や訓練を繰り返し行っていくことが大切。